

今週（12月4日から12月8日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、引き続き資金調達ニーズが強く、レート水準は高止まりの展開となった。

無担保コールO/N物は、連日多くの先から▲0.01%ビッドが入るなか、更に取り上がる先も多数見られる展開が続いた。加重平均レートは、週初4日(月)が税揚げ日となった事で、調達ニーズが一段と強まり▲0.013%となった。例年12月上旬の税揚げ額は大きくなる事から、その後の調達姿勢にも影響し、レート水準は上昇傾向が続き、5日(火)に▲0.011%、6日(水)と7日(木)は▲0.010%となった。週末となった8日(金)は、概ね横這い圏ながら、僅かに上昇した先も見られた。

ターム物に関しては、積み後半に入りキャッシュ潰しのニーズが減退し、オファーも限定的ななか、年内物、年越え物ともに幅広いレート帯で散発的に出会いが見られた。特に積み期内のターム物は、O/Nの影響から週末にかけて上昇した。

日銀当座預金残高は、4日(月)は税揚げにより約531兆円強まで減少して始まり、5日(火)は国債買入により533兆円弱まで増加したものの、6日(水)以降は10年債発行により再び減少し、529兆円台で推移した。

●レポ市場

今週のGC T/N物の出会い水準は、概ね▲0.10～▲0.08%程度での推移となった。

SCは、ロールオーバーを中心に幅広い銘柄で取引が見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、概ね横ばい圏での推移となった。

5日(火)に実施された短国買入オペは、前回と同額の1,000億円でオファーされ、無難な結果となった。

7日(木)に実施された6M物入札は、無難な結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットでも堅調に推移した。8日(金)に実施された3M物入札に関しても無難な結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットでは小じっかりと推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、電気・ガス、石油石炭など幅広い業態から発行が見られ、週間の発行総額は1兆3,000億円程度となった。

市場残高は、年末に向けて資金需要の高まりが見られており、直近1ヶ月間で約2兆円程度増加し、足許では28兆円台前半で推移している。

発行レートは、日銀適格担保銘柄の3M以内の案件については、0%近辺での出会いが中心となった一方で、4M以上の案件では政策変更の警戒感からか、レート水準にばらつきが見られた。また、非適格担保銘柄や一部のノンバンク銘柄では、投資家目線の上昇が見られた。

7日(木)に行われたCP等買入オペは、事前予定通り4,000億円でオファーされた。残存期間の短いCPを売却する動きが見られた為か、結果は按分レート+0.001%、平均落札レート+0.005%と、前回（按分0.000%、平均+0.027%）比で按分レートは上昇、平均は低下した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
12/4（月）	33,231.27	0.690	146.35	△ 0.013	△ 0.100	5,313,600
12/5（火）	32,775.82	0.665	147.20	△ 0.011	△ 0.086	5,328,000
12/6（水）	33,445.90	0.645	147.19	△ 0.010	△ 0.090	5,298,500
12/7（木）	32,858.31	0.750	146.00	△ 0.010	△ 0.088	5,298,800
12/8（金）	32,307.86	0.769	144.00	△ 0.010	△ 0.085	5,295,900

来週（12月11日から12月15日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
12/11 (月)	11月のマネースtock(日銀 8:50) 10-12月期の法人企業景気予測調査季報 (内閣府・財務省共管 8:50)				
12/12 (火)	11月の企業物価指数(日銀 8:50)	5Y 25,000億円 12/13発行	エネルギー 対策借入 7,000億円 12/20借入		米FOMC(1日目) 11月の米消費者物価指数 11月の米財政収支
12/13 (水)	12月調査の日銀短観(概要及び要旨,日銀 8:50)				米FOMC(2日目) FRB 米経済見通し発表 11月の米生産者物価指数
12/14 (木)	10月の機械受注統計(内閣府 8:50)	20Y 12,000億円 12/15発行			ECB理事会 英中銀MPC 11月の米小売売上高 10月の米企業在庫
12/15 (金)	10月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30) 10月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	TB3M 56,000億円 12/18発行			11月の米鉱工業生産・設備稼働率

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
12/11 (月)	▲ 1,000	▲ 13,300	▲ 14,300	国債買入 国債補完	37,200	14,800	52,000	37,700	TB3M発行▲56,000償還56,000 TB6M発行▲40,000償還38,500
12/12 (火)	▲ 2,500	▲ 3,000	▲ 5,500	CP買入		4,000	4,000	▲ 1,500	
12/13 (水)	▲ 1,000	▲ 23,000	▲ 24,000				0	▲ 24,000	源泉税揚げ 5Y発行▲25,000
12/14 (木)	▲ 2,000	2,000	0				0	0	
12/15 (金)	▲ 1,000	61,000	60,000	貸出増加支援	▲ 20,600		▲ 20,600	39,400	年金定時払い 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲3,500 個人向け3・5Y償還500 20Y発行▲12,000 交付税借入▲13,000期日13,000
週 間 合 計	▲ 7,500	23,700	16,200	—	16,600	18,800	35,400	51,600	

12/11は日銀予想、12/12以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、積み最終週となり邦銀業態の調達ニーズは引き続き強い事が予想され、高めのレート推移が続く可能性が高いものの、週末15日は新積み期間を跨ぐ取引となる事から、レートはやや落ち着く事が予想される。また13日に貸出増加支援オペがオフアーされる予定であり、応札規模が注目される。債券レポ GC T/Nは、▲0.12～▲0.05%程度のレンジでの取引が予想される。短国市場は、15日に3M物の入札実施が予定されている。また、12日に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、五十日に当たる15日発行が控えており、発行動向が注目される。

主要なイベントは、国内では12日に11月の企業物価指数、13日に12月調査の日銀短観、14日に10月の機械受注統計、海外では、12日に11月の米消費者物価指数、12日から13日に米FOMC、米経済見通し、14日にECB理事会、英中銀MPCなどが予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入